

永明中学校庭遺跡など解説

市中央公民館 縄文文化講座

茅野

茅野市中央公民館の縄文文化講座が16日、同館で始まった。全2回の講座で、テーマは「永明中学校校庭遺跡からいったい何が発掘された？」。初回は実際に調査を行った市文化財課の堀川洗太朗さんが講師を務め、永明中学校校庭遺跡の発掘状況や塚原周辺の遺跡について解説した。



永明中学校校庭遺跡の発掘調査の結果に理解を深めた講座

同遺跡は2021年4月から23年6月まで発掘調査を実施。21年度の調査では竪穴住居跡40軒（弥生時代32軒、平安時代8軒）、掘立柱建物2棟、周溝墓3基などが見つかった。22、23年度は弥生時代後期の住居跡8軒、土坑墓6基などを発掘した。

同遺跡では「珍しく墓が複数見つかった」と堀川さん。このうち穴を囲うように石が四角く並んだ墓坑について「この時代の遺跡では他に例がない不思議なもの」と紹介。中から弥生時代の装飾品と思われる金属製品が出てきたといい、「指導者のような特別な人の墓かもしれない」と話した。

塚原周辺については、縄文時代中期から弥生、古墳、平安、戦国と各時代の遺跡があり、「歴史的にさまざまな文化財が眠っているのが特徴」と説明。永明中学校校庭遺跡は住居の建て方、炉の作り方や土器の文様などに伊那谷や佐久平、甲府盆地などからの影響が見られ「交通の要衝の側面もあったのでは」と分析した。

市民ら約20人が受講。第2回は23日、同課の吉村璃来さんが縄文時代と弥生時代の違いについて話す。